

Jeweled Odyssey: Foundation and Florescence in the Asian Enamel Arts.

21st October through 3rd December, 2017. Closed every Monday. Museum hours 10:00 A.M.-5:00 P.M. Five minutes walk from Kaminoge station, Oimachi line.

THE GOTOH MUSEUM

URL: <http://www.gotoh-museum.or.jp/>

特別展

光彩の巧み

瑠璃・玻璃・七宝



文様をガラスで満たす装飾のわざは
西方から長い旅路をへて中国にわたり
日本では「七宝」と呼ばれました。
古代の飾り金具から、皇帝や大名の室内装飾、
茶の湯道具や文房具まで、
あふれる色彩が放つ耀きと巧みのわざを
約100点の名品でたどりまます。

二〇一七年

十月三十一日土—十二月三日日

■休館日 毎月曜日

■開館時間 午前10時—午後5時（入館は午後4時30分まで）

■入館料 一般2,000円／高・大学生900円／中学生以下無料

五島美術館



「瑠璃」や「玻璃」は、貴石やガラスを示すとともに、極楽浄土を荘厳する宝を意味する言葉でもあります。これらは奥深い光をたたえて金属器をかざり、神秘の力を与え、持つものに権威をもたらしました。

こうした装飾効果は、溶かした釉薬で文様を彩る技法の発見によって、より自由な形で可能となります。西アジアや欧州ではすでに紀元前から行われており、やがてこの技法が中国にもたらされると「瑠璃」または「景泰藍」の名を得て独自の発展を見せました。日本では仏典に見る七つの宝にちなんで「七宝」と呼ばれ、座敷飾りや室内調度に好んで用いられるようになります。

東洋に花開いた七宝かざりの旅路は、人々が求めた光彩と巧みの技で飾られています。本展ではその装飾技術の軌跡を、約二〇〇点の名品でたどります。

小文散七宝銀印籠 江戸時代・十八世紀 岡山・林原美術館



富嶽園七宝二所物 桃山・江戸時代・十七世紀 東京国立博物館



花丹文七宝八角花入 明時代・十五世紀 東京・静嘉堂文庫美術館

九七樹蛇龍文七宝釘隠手 桃山・江戸時代・十六・十七世紀 京都・細見美術館



牡丹唐草文七宝建水 明時代・十五世紀 東京・島山記念館



重要文化財 名古屋城本丸御殿換引手 江戸時代・十七世紀 名古屋城総合事務所



*会期中一部展示替があります

講演会

「中国の金属器と塗漆・彩画・象嵌」 十月二十二日[日]
中野徹氏(元和泉市久保惣記念美術館館長) 十一月四日[土]

「七宝の展開をたどる」 十二月二十五日[土]
小川幹生氏(元名古屋博物館学芸員)

「七宝との対話」 十二月二十五日[土]
柴田明氏(株式会社安藤七宝店 工場長)

各日午後二時より(開場・受付は午後一時)
五島美術館別館講堂 当日入館者聴講無料 椅子席一〇〇名先着順
午後一時より聴講整理券を発行します。(人数により入場を制限する場合があります)

ギャラリートーク

「溶かして満たす瑠璃の花」 十月二十七日[金]・十一月十日[金]
各日午後二時―三時頃(開場・受付は午後一時三十分)
五島美術館別館講堂 当日入館者聴講無料 椅子席一〇〇名先着順

「秋の三館―美をめぐる」キャンペーン

今秋も以下の三展覧会期間中、各展覧会の半券で残り二館いずれかの入館料が割引になります。さらに三館すべてを来館いただいた方には特典があります。

●三井記念美術館 九月十六日[土]―十二月三日[日]

●特別展「驚異の超絶技巧―明治工芸から現代アートへ―」 十月二十一日[土]―十二月三日[日]

●五島美術館 十月二十一日[土]―十二月三日[日]

●特別展「光彩の巧み―瑠璃・玻璃・七宝―」 十一月三日[金・祝]―十二月十七日[日]

●根津美術館 特別展「聖の華―光村コレクションの刀装具―」

*詳細はホームページなどでご確認ください。各館にお尋ねください。

○お問い合わせ(展覧会のご案内) ハローダイヤル〇三三七七七八六〇〇

五島美術館

158-8510 東京都世田谷区上野毛3-9-25 電話(03)3703-0661

The Gotoh Museum
9-25, Kaminoge 3-chome,
Setagaya-ku, Tokyo 158-8510
Telephone:(03)3703-0661



○交通=東急大井町線<各駅停車>「上野毛駅」(かみのげ)下車徒歩5分
○お車でのご来館が必要な方以外は、公共交通機関をご利用ください

